

# 問題解決型の道徳教育～中学校編～

The Problem-solving Type Moral Education: Junior High School Version

柳 沼 良 太

岐阜大学教育学部学校教育講座

YAGINUMA Ryota

## はじめに

わが国の中学校の道徳授業は、読み物資料が長文化し価値内容も高度になるが、その授業スタイルは小学校のものとほとんど同じである。つまり、生徒に登場人物の気持ちを理解させ、ねらいとする価値を内面化させようとするものである。しかし、中学生ともなれば、主体的な判断力や批判力が発達してくるため、教師が資料を使って自明の道徳的原理を心情的に教え込もうとしてもなかなか困難になり、時として価値の押し付けに反発することもある。また、中学の道徳授業では義務教育の最終段階として、私的な友情や思いやりよりも社会的な秩序形成や法律遵守を優先させる傾向が強まるため、読み物資料の物語を曲解させた強引な説教話になることもある。一般には、教師の方でも生徒指導としての効果が低い従来の道徳授業にあまり期待を寄せず、道徳の時間に教師の人生論や世間話をしたり、中学生日記やプロジェクトXなどのビデオを観せたり、学級会や特別活動に振り替えたりするケースが少なくない。こうして諸事情から、中学校では小学校以上に過酷ないじめ、不登校、校内暴力、非行などの道徳的問題が山積しているにもかかわらず、肝心の道徳授業は敬遠（倦厭）されてしまうことがある。まさに、中学校の道徳授業こそが革新を求められていると言えるだろう。

筆者はすでに本紀要の第7巻で問題解決型の道徳授業の理論を具体的に説明し、小学校での実践例を2つ紹介した<sup>①</sup>。中学校における問題解決型の道徳授業も、基本的な枠組みは小学校の問題解決型の授業と同様であるが、以下の3点をより一層拡充してある。まず、生徒が主体的に道徳的問題を考え、価値を判断し、解決策を構想する割合を増やす点である。次に、中学用の読み物資料を授業のテーマに合わせて分割・縮小し、問題場面に焦点を当てて必要な部分を提示する点である。最後に、中学校は義務教育の最終段階であるため、個人の自己創造と民主主義社会の構築との関係を適切に調整する点である。

本稿では、問題解決型の道徳授業の実践例を紹介していく。これらの実践例は、筆者の大学院の講義や研修会などで、中学校の教諭によって構想された指導案とその実践記録をもとにしている。ただし、その後、様々な教師が同じ道徳資料や指導案を用いて修正して検証を繰り返しているため、特定の教諭の名前は掲載していない。以下で提示する指導案の流れは、基本的に（1）子どもの実態、（2）主題の設定、（3）ねらいの設定、（4）資料の概要、（5）資料の分析、（6）学習指導過程の大要、（7）評価方法の順になっている。なお、学習指導過程の会話文は、実際の授業内で話した内容だけでなく、授業外で子どもたちが話した内容やワークシートに記入した内容なども取り入れながら、本稿の紙数に合わせて部分修正してある。会話文の冒頭におけるTは教師を表し、Cは生徒を表す。また、会話文の中の「→」はある生徒の意見の後に出了た別の生徒の意見を意味し、「:」はある意見の理由を意味する。

## 1 「スリーテン」(中学1年生)

これは自他の意見を尊重することをテーマに、「スリーテン」を改作して用いた問題解決型の道徳

授業である。

### (1) 生徒の実態

中学1年生は、はじめ自分たちの要望や権利ばかり主張し、あまり相手の言い分に耳を傾けないため、クラスでは口げんかが絶えない。同じ小学校出身者同士、隣席の同性同士、同じ部活に所属する者同士でグループを形成し、同じ価値観を共有する一方で、他のグループや他者の価値観を理解しようとしないうえ、互いを排除したり対立したりすることがある。このように自分と同じ考えを持つ仲間同士では互いの欲求や権利を尊重し合うが、他のグループや未知なる他者の欲求や権利にはなかなか配慮ができない。エゴグラム調査ではNPやAが高くても、発達段階では他者や弱者を十分に思いやれない生徒が多い。

### (2) 主題の設定

生徒が互いに自己主張することは大切であるが、自分の欲求や権利を一方的に主張するだけでなく、他の生徒の言い分も共感的に理解して、互いに尊重し合える学級にしたい。発達段階でいうと、自分や仲間だけ優先するレベルから弱者や未知なる他者の言い分も公平に尊重するレベルへの移行を目指す。そこで、スリーテンの話し合いを通して互いの価値観の違いを深く理解し、異質な他者の言い分や心情を尊重しながら、社会的弱者に対する思いやりの念をもった問題解決ができるようにしたい。

### (3) ねらいの設定

大きなねらいは、「いろいろな考え方があることを理解し、それぞれの個性や価値観を尊重する態度をはぐくむ」である。資料に即したねらいは、『スリーテンの問題を考えることで、他者の立場や言い分を理解し、他者の欲求や人権を尊重しながら問題解決する能力を養う』である。

### (4) 資料の概要

寒い冬の朝に10人の乗客を乗せたバスが途中で故障して動かなくなった。代えの小型バスが来るが、そこには7人しか乗れない。そこで、だれを優先して乗せるかが問題となる。

### (5) 資料の分析

スリーテンは、本来、地球滅亡後に残された10人の内7人を選んでロケットに乗せて宇宙へ脱出する話であるが、内容がやや残酷なため多少修正し、「どの7人を先にバスに乗せるか」という話にした。この場合、乗せる7人を選ぶパターンと乗せない3人を選ぶパターンがある。乗せる基準としては、弱者優先、自分優先、重要人物優先、任意の選出などが考えられる。また、たんに見かけだけで相手を判断する場合と、登場人物の早く乗りたい理由を聞いた上で判断する場合で、選定が異なる点にも注目する。多様な意見を吟味する中で、だれを本当に優先すべきか、だれが本当の弱者なのかを探究して適切な問題解決を目指したい。

### (6) 学習指導過程の概要

#### <導入>

※『心のノート (中学校)』のp.54の奇妙な鳥の絵を見せる。

T この絵は何に見えますか。

C アヒルだよ。→ワニじゃない。→カモかも?→カバさ。

T 答えは様々ですね。どれが正しいでしょう。

C 絶対アヒルだよ。→どう見てもカモでしょ。→なんでだよ (笑)

T いろいろ出ましたが、なぜ意見が分かれますか。

C 変な絵だから。→同じ物を見ても人によって見え方が違うから。

T 確かにそうですね。このように意見が分かれたとき、どうすればよいと思いますか。

C 多数決で決めればよい。→自分の考えの正しさを説明する。

T 今日、いろいろな見方や考え方について考えるために「スリーテン」を読んでみましょう。

#### <展開前段>

※ 下記の資料を読む。

ある冬の朝、10人の客を乗せたバスが寒い荒地でパンクしてしまいました。運転手が電話でバス会社に連絡すると、1時間ほどして代替りの小型バスが一台来ました。しかし、その小型バスには運転手のほかに7人しか乗れません。外はとても寒くて凍えそうで、みんな暖かな小型バスに乗りたがっています。

- |              |                |
|--------------|----------------|
| ① 40代女性の会社員  | ⑥ 70代の優しそうな女性  |
| ② 50代男性の政治家  | ⑦ 40代男性の大工     |
| ③ 6歳の女兒      | ⑧ 30代の怖そうな男性   |
| ④ 同じ学校の異性の友達 | ⑨ 30代の妊婦服を着た女性 |
| ⑤ 60代男性の僧侶   | ⑩ 自分（中学生）      |

T あなたが乗客10人のうち小型バスに乗せる7人を選ぶように頼まれたとしたら、だれをどのような理由でどのように選びますか。

C 1案 高齢者が先だ。：バスには高齢者の優先席があるもの。

C 2案 まずは自分が乗るよね。：やっぱり自分や友達が大事でしょ。

C 3案 女性が先よ。：だってレディーファーストっていうじゃない。

C 4案 偉い人が先だよ。：社会的に重要な人から先に乗せるべきだよ。

C 5案 ジャンケンかアミダクジで決めればいいよ。：面倒だからさ。

T 自分の意見を本当に尊重できるか、もう一度よく考えてください。また、自分の案は乗せない人々を納得させることができますか。

C 後で文句言われそうで嫌だな。→ちょっと考え直そうか。

→強い人を先に乗せるのはどうかな。→ジャンケンもいいかげんだ。

T なぜそれらは問題なのですか。

C 弱い方を優先した方がいいから。→困っている人を救うべきだよ。

→高齢者が先なのはいいと思う。→子どもや女性も優先すべきかな。

C 高齢者や子どもや女性でも元気な人がいるし、男性でも体の弱い人や急いでいる人がいるよ。→そうだ、見かけだけじゃ分からないぞ。

<展開後段>

※ 次に下記の「早く行きたい理由」を配布して話し合う。

(早く行きたい理由)

- |                                 |
|---------------------------------|
| ① 40代女性の会社員：就職の面接があるため、遅れたくない。  |
| ② 50代男性の政治家：重要な会議がある。後でお礼をするから。 |
| ③ 6歳の女兒：寒いから早く小学校へ行きたいよ。        |
| ④ 同じ学校の異性の友達：今日はテストがあるから早く行きたい。 |
| ⑤ 60代の僧侶：集会があるので早く行きたい。         |
| ⑥ 70代の婦人：ゲートボールの試合に遅れたくない。      |
| ⑦ 40代男性の大工：急病なので、早く病院へ行きたい。     |
| ⑧ 30代の怖そうな男性：先に乗せないと、殴るぞ。       |
| ⑨ 30代の妊婦服を着た女性：お腹に子どもがいるのでつらい。  |
| ⑩ 自分（中学生）：早く学校へ行きたい。            |

T それぞれの意見を理解した上で、どうやって決めればよいかもう一度判断しましょう。グループごとに意見とその理由を発表してください。また、その決め方は、どのような結果になるかも考えてみよう。

C 1案 弱い人や困っている人を優先する。(⑦と⑧と⑨優先)

：⑦は病気だし、⑨は妊娠中だから思いやるべきよ。→誰かが体調を悪くすれば、後で訴えら

れるかもしれないから。

C 2案 強い者を優先する。(②と⑧優先)

: ②は社会的に重要な会議かもしれない。→⑧は暴力をふるわれるから。→⑧の暴力を認めると、暴力を認めることになるよ。

C 3案 自分が得になるようにする。(⑩と④を優先)

: やはり自分が大事だよ。→それでは人を納得させられないよ。

C 先生だったらどうしますか。

T 先生は後で行くな。お坊さんや政治家の人にも後にしてもらうかな。

C 私も後で行きます。→学校は理由を話せばわかってもらえるよ。

→残る人を募集したらどうかな。→互いに譲り合うと、席が余るね。

### 終末

T 今日の授業でどのようなことを考えましたか。

C 皆いろんな考え方をすることがわかった。→相手の立場を考えると、無責任なことが言えないと思った。→よく考えると、それぞれの立場を尊重して、皆が納得できる解決策を作れると思った。

T いろいろな人の見方や考え方を知ること、いろいろな立場からものを考えられるようになり、自分の想像の限界を乗り越え、自分を豊かに大きく成長させるきっかけとなるのです。今週の目標は、相手の言い分をよく聞き理解することにしましょう。

### 事後指導

T この一週間、相手の言い分をよく聞き理解してみてどうでしたか。

C 相手の考えが分かるようになり、少し優しくなれたような気がする。

→人の考えからいろいろな価値観を知ることができて楽しかった。

T 以前の自分と比べてどうですか。どのように成長したと思いますか。

C ものの見方が広がった。→さまざまな立場から深く考えられるようになった。→他人の価値観も広い心で受け入れられるようになった。

T なかなか立派ですね。これからも続けていきましょう。

### (7) 評価方法

まず、他者の意見を理解し尊重する態度について評価する。初めは自分の意見を押し通し、相手の意見を一方的に批判する面もあったが、議論が進む中で他者の意見にもよく耳を傾け、多様な意見を調整しながら判断する様子が窺えた。次に、展開前段での人選と展開後段で「早く乗りたい理由」を聞いた後の人選で、どのように判断や解決策が変化したかを見る。初めは自分や仲間を優先する意見が多かったが、議論が深まるにつれて社会的弱者や未知の他者の言い分を思いやる意見も現れた。最後に、授業後、互いの主張を理解し合う目標を達成できたか評価する。実際は、以前よりも互いの意見をじっくり聴く姿が見られるようになり、口げんかも少なくなった。

### (8) ワークシート

1. あなたはどのようにして乗せる人と乗せない人を決めますか。

1回目	自分や友達だけでなくお年寄りや子どもも乗せる。
2回目	事情を聞いて、弱者や緊急の人を優先する。

2. 小型バスに乗せる人とその優先順位と理由を述べてください。

2回目に順位を変える場合は、その理由も後ろに書いてください。

乗せる人	1回目	2回目	1回目の理由→2回目の理由
70代の女性	1	4	高齢だから→試合はいつでもできる。

6歳の女兒	2	3	まだ幼いから→身体も弱そう
60代の僧侶	3	7	身体が弱そう→他人に譲っているため
30代の主婦	7	2	妊婦だから→妊婦は優先
50代の男性	5	6	立派そうだから→急な用事があるから。
学校の友達	6	9	テストだから→一緒なら遅れてもいい。
自分	4	10	自分は大事→学校は遅れても許される。

### 3. 小型バスに乗せない人とその理由を述べてください。

乗せない人	1回目	2回目	1回目の理由→2回目の理由
30代の男性	8	8	危険だから→暴力は許せない。
40代の女性	9	5	優しそうだから→急な用事があるため。
40代の大工	10	1	元気そうだから→急病なので優先する。

### 4. この授業で何を学んだこと

初めは自分や友達と弱そうな人を選んだ。しかし、事情を聞くといろいろな理由があったため、それぞれの事情をふまえて判断するようにした。人の意見をよく聞いてから判断することが大切だと思った。

## 2 「いじめについて考える」(中学2年生)

これはいじめ問題をテーマとして「いじめについて考える」(『道徳教育推進指導資料』, 文科省, 平成9年)を改作して作成された問題解決型の道徳授業である。

### (1) 生徒の実態

中学校では大小様々ないじめが起きており、ときどき暴力行為や金品強奪も報告されている。担任は朝夕の会や学級会でいじめをなくすために指導しているが、教師の目の届かないところでいじめは存続している。学級でも、虚弱な生徒がいじめの対象になり、不登校になった例が過去にあった。また、学級委員の男子生徒がいじめを止めようとしたところ、逆にいじめの対象にされたケースもあった。エゴグラム調査ではFCの高くAの低い生徒がいじめをする側に多く、逆にACの高い子がいじめられる側に多い。道徳意識アンケートでは被害意識と被受容意識が著しく低い生徒が4人ほど確認された。

### (2) 主題の設定

いじめ問題は、「いじめられる子(被害者)」や「いじめる子(加害者)」だけでなく、「いじめを見ている子(観衆・傍観者)」や教師をも含めて、学級全体の問題として包括的に取り組み解決する必要がある。発達段階で言うと、仲間同士の連帯や利害関係だけを重視するレベルから身近な弱者(被害者)への思いやりや学級全体への影響を考えるレベルへの移行を目指す。資料では、被害者、加害者、観衆・傍観者、教師の言い分をそれぞれ検討した上で、いじめをない健全な学級にするために、教師と生徒が力を合わせて何ができるかを考える授業にする。

### (3) ねらいの設定

大きなねらいは、「いじめをクラス全体の問題として理解し、温かい心情で弱者や他者を思いやる態度を養う」である。資料に即したねらいは、『いじめの加害者、被害者、傍観者、教師の立場を理解し、いじめをなくすための解決策を考え、現実実践する能力を養う』である。

### (4) 資料の概要

**資料1 A男の話** ぼくは体が弱かったので中学2年生頃からB男たちにいじめられるようになった。いじめられないようにCDやゲームを貸したが、そのうち金をせびられるようになった。他の生徒もただ見ているだけで、先生が来てもB男が「プロレスごっこをしているだけ」と言うと、立ち行った。学校に行くのが怖くなって、死にたいくらいだった。

**資料2 B男の話** A男から金を取ったり殴ったりしたのは悪かったと思う。でも、はじめは気に入られようとして自分からCDやゲームをもってきたんだ。プロレスごっこも遊びなんだから、つらいならそう言えばいいんだ。オレたちだって強い奴らにやられたけど、我慢したんだ。ちょっとしたことで悲鳴をあげるから、面白がられてやられるんだ。

**資料3 C男の話** B男を中心に4, 5人のグループがよく弱い奴をいじめていた。そのうち抵抗できないA男がいつもいじめられるようになった。でも、B男たちからの仕返しが恐くて何もできなかった。だれかがいじめられている間は、自分は大丈夫だとわかっていたから、悪いとは思ったが、見て見ぬふりをしていた。

**資料4 教師の話** いじめは他人の幸福に生きる権利を侵害する卑劣な行為であり、決して許されない。ただ、いじめは先生の見えていないところで行われることが多いため外から判断しにくいのも事実である。先生もいじめをなくすために全力で努力するから、クラスの皆も先生と共に勇気をもって立ち上がり、いじめのない快適なクラスを作っていこう。

### (5) 資料の分析

いじめ問題は、その被害者、加害者、観衆や傍観者、そして教師の立場で見方や考え方が異なるため、それぞれの立場で価値観や問題点を分析する必要がある。具体的には、被害者の「弱い者いじめは絶対許されない」という意識、加害者の「いじめは遊びなので、多少は許される」という意識、傍観者の「自分には関係ない」「他人に干渉しない」という意識、そして教師の「クラス全体の連帯が必要である」という意識を総合的かつ批判的に考える。解決策としては、被害者の自己主張能力を高めること、加害者の猛省を促すこと、傍観者の当事者意識を高めること、教師の積極的な対応を求めることなどが考えられ、いじめのないクラスづくりのために生徒と教師で何ができるかを総合的に考えるようにする。

### (6) 学習指導過程の概要

#### 導入

T 最近、学校でいじめが起きていることがあります。そこで今日はいじめ問題を取り上げます。

※『心のノート (中学生)』のp.96を参照。

T いじめとは具体的にどのようなことだろうか。

C 弱い者を殴ること。→蹴ること。→仲間外れにすること。→無視すること。→悪口を言うこと。→冗談でやる場合もあるけどね…。

T いじめかどうかの判断基準は、いじめられた者の気持ちにかかっています。ふとした言葉やいたずらがいじめになることもあります。

文部科学省のいじめの定義 自分より弱い者に対して一方的に、身体的・心理的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているもの。

T いじめにかかわっているのはどんな人だろう。

C いじめる子→いじめられる子→周りで見ている子はどうか。→見ているだけなら関係ないよ。

T いじめられる者といじめる者だけでなく、いじめを見ている観衆や傍観者もいじめに関係があります。今日は、いじめ問題を考えるために、それぞれの立場の意見を読んで検討しましょう。

#### 展開前段

T 資料1の被害者の手記を読んでどのように思いましたか。

- C A男がかわいそう。→黙っていないで、先生や親に相談すればよかったんだ。→言えなかったんだよ。→簡単に言えりゃ苦労しないさ。
- T なぜ言えなかったのだろう。
- C 怖いから。→先生に言ったら、もっとひどくなるから。→男だから。
- T A男はどうしたらよかったと思いますか。
- C 「助けてほしい」と先生や親に言うべきだ。→いじめる子に「やめろ」と大声で言えばいい。→周りの友達に「助けてくれ」と頼む。
- T **資料2**を読んで加害者（B男）の言い分をどう思いますか。
- C B男は勝手な言い訳ばかりしている。→やられる方の身にもなれってんだ。→でもB男の言い分もわかるよ。→プロレスごっこは、ただの遊びだよ。→誰かが一方的にやられる場合は、いじめだ。
- T ふざけや遊びと感じる範囲は、一人ひとり違います。同じことをしても傷つく人もいれば、傷つかない人もいる。その基準を決めるのは、いじめる方ではなく、いじめられる方です。
- T **資料3**を読んで傍観者（C男）の言い分をどう思いますか。
- C 周りで見ている人が助けないのが問題だ。→C男は臆病で最低だ。→罪の意識をもってるだけましだよ。
- T 1人ではいじめを止められないとしたら、どうすればいいだろう。
- C 先生に伝えることくらいはできるはずよ。→皆で行けば、いじめる人も止めてくれる。→先生と一緒に生徒みんなで立ち上がるべきだ…。
- T **資料4**を読んで教師の言い分をどう思いますか。
- C 先生じゃいじめはわからないよ。→見て見ぬ振りする先生もいるよ。
- T 先生にどうしてほしいだろう。そして君たちは何ができるだろう。
- C 先生はもっと厳しくいじめを取り締まってほしい。→生徒のトラブルにも踏み込んでほしい。→私たちもできる限り協力する。
- T いじめを解決するためには、先生とみんな一致団結して協力しなければなりません。先生と共に勇気をもって立ち上がってください。

#### 展開後段

- T この事例のいじめ問題は、どうすれば解決できると思いますか。なぜそう思うか、そうした結果どうなるかも考えながら話し合おう。
- C 1案 **A男が戦う。自己主張する。**：まず本人が立ち上がるべきだ。→戦って勝てるか。→ナイフで脅かせばいい。→それはダメだ。
- C 2案 **A男が先生か親に相談する。**：先生や親の協力が無いと無理だ。→大人の出る幕じゃない。→これはケンカじゃなく犯罪だ。
- C 3案 **周りの人が止めるか、先生に報告する。**：A男は弱いから。→チクッたって言われて、今度はその人がいじめられるかもよ。
- C 4案 **いじている者に厳罰を与える。**：悪い者は力でねじ伏せるしかない。→強い生徒が止めればいい。→復讐されるかも。
- C 5案 **何もしない。**：後でいじめられないように。→もっとひどくなるかも。→A男が自殺したらどうする。
- T 自分が尊敬する英雄（ヒーロー）だったらどう言うだろう。
- C キング牧師なら、「暴力は使わず、いじめをなくそう」と訴え続ける。
- C ヤンキー先生なら、いじめをする奴を体当たりで指導すると思う。
- T あなたが当事者でも、自分の考えた解決策でいいか考えてください。
- C 被害者なら厳しく罰してほしい。→でも、加害者ならあまり厳しく罰しないでほしい。→生徒だ

けで暴力で対抗するのはどうかな…。

T これまでの話し合いをふまえて、どの解決策が最もよいか考えてみよう。いくつかの解決策を組み合わせてもいいです。

C まずA男が「やめろ」と自己主張する。それがダメなら先生に相談する。周囲の生徒がA男の代わりに先生に報告してもいい。先生が中心となり、クラスの皆がA男を守り、協力していじめをなくす。

#### 終末

T 今日の授業を通して、いじめ問題についてどのように考えましたか。

C いじめられている人の気持ちを大切にすべきだ。→他人事ではなくクラス全体の問題だと思った。→皆で協力していけばなくしていける。

T いじめのない学級をつくるために、これからどのようなことができるだろうか。具体的に目標を立ててみよう。

C それぞれの立場を尊重して、いじめをしない。→いじめがあったら先生にすぐ報告する。→いじめを見たらクラスの友達が止めに入る。

T もしこのクラスでいじめがあれば、必ず先生に相談してください。先生も全力で取り組むから、皆で協力して良い学級にしていこう。

#### 事後指導

T クラスのいじめをなくすという目標は、どれくらい達成できましたか。10点満点で言うと何点だろう。

C 少しは減ったけど、まだあるから3点。→皆で取り組めたから7点。→思いきって先生に手紙で報告したから6点かな。→皆で勇気をふるって抗議したら、止めてくれたから8点。

T あと1点プラスするためには、どうすればよいただろう。(白紙の紙を渡してアイデアを書いてもらい、回収して読み上げる。KJ法の活用)

C1 先生がいない時、だれかが責任をもって行動する。→学級委員のAさんが止めるべきだ。→もっと強い柔道部のB君にお願いしよう。

C2 すぐ先生に連絡できるようにする。→手紙でもメールでもいい。

T いじめがあったら先生に相談してください。手紙でもメールでもいいから、勇気をもって連絡してください。先生がいない時は、AさんやB君たちのグループを中心に皆で協力してください。

#### (8) 評価方法

生徒がいじめ問題に関してどれだけ考えを深めたかを評価する。初めは「冗談だからいい」「殴らなければいい」と軽率に発言していた生徒も、後には「被害者の気持ちをもっと理解した方がいい」と発言していた。また、資料のいじめ問題の解決について評価する。初めは多くの生徒が「自分には関係ない」と考えていたが、後にはクラス全体の問題として「いじめを見たら止める」「先生に報告する」など具体的に考えていた。最後に、いじめをなくすという目標を一週間行い、その成果を評価する。実際には、授業の後もいじめの報告があったため、事後指導を2度徹底して行った。教師と生徒が本気でいじめ対策に取り組むことで、被害も減りクラスに明るい雰囲気に戻ってきた。

## 2 「二通の手紙」(中学3年生)

これは社会規範の遵守をテーマとして、資料「二通の手紙」(道徳教育推進指導資料6, 平成9年)を用いた問題解決型の道徳授業である。

### (1) 生徒の実態

中学3年生は法や規則(ルール)の大切さを頭では理解しているが、私情や利害関係が絡んでくる



と、平気でルールを破ってしまうことがある。例えば、学校での係活動や掃除でも先生から厳しく指導されないと、自発的に活動しない生徒も多い。こうした態度は、社会規範やルールが単に面倒で煩わしいものにすぎず、できれば公共的な係活動や掃除よりも私的な欲求や仲間との友情を優先させたいという価値観の表れであると考えられる。道徳意識アンケートでは、自他の受容意識は高いが自己肯定意識は低く、エゴグラムではNPやFCの高さとCPやAの低さが気になるところである。

## (2) 主題の設定

身近な弱者や仲間に対して思いやりをもつことは大事だが、それと同時に社会的規範を遵守することの大切さも深く認識し、責任ある価値判断ができるようにしたい。発達段階で言うと、身近な弱者や仲間集団のための利益しか思いやれないレベルから、将来の結果や社会的な規範を幅広く考えるレベルへ移行させ、将来、社会人として責任ある行動をとれるようにしたい。資料では、元さんが姉弟への思いやりと会社の規則遵守との間で葛藤する問題を考察して、大局的な見地から責任ある道徳的な判断をし、適切な解決策を構想できるようにしたい。

## (3) ねらいの設定

大きなねらいは、「規則の意義を理解し、自他の欲求を尊重しながら規律を尊重して義務を遂行する態度をはぐくむ」である。資料に即したねらいは、『規則遵守と思いやりが対立する問題を考えるで、規則の意義を理解し、責任ある勤労を尊重し実践する能力を養う』である。

## (4) 資料の概要 (一部改作)

元さんが動物園の入り口を閉めようとしていると、幼い女の子が弟の手を引いて「入れてくれ」と頼んだ。元さんは困りながら言った。「もう終わりだよ。それに子どもは家の人が一緒じゃないと入れないよ」。その女の子は今にも泣き出さんばかりだった。「でも、今日は弟の誕生日だから、キリンやゾウを見せてあげたかったのに…」。(中断)

元さんは「じゃ今日だけ特別に入れてあげよう。そのかわりなるべく早く戻るんだよ」と言った。しかし閉門時刻の5時を過ぎて戻ってこなかったため、職員をあげて一斉に子どもの搜索を始めた。一時間後に園内の小さな池で遊んでいる二人を発見した。数日後、事務所へ元さん宛てに姉弟の母親から感謝の手紙が届いた。その家族は父親が病気で母親が働きづめのため、姉が弟の誕生日に動物園に弟を連れて行ったのだという。元さんは職場の仲間から褒め称えられた。その後、元さんは上司から呼び出され、解雇処分の通告の手紙を渡された。

## (5) 資料の分析

この資料の道徳的問題は、元さんが姉弟を思いやり特別に入園を許可するか、職場の規則を厳格に遵守するかにある。ここで注目すべき価値は、姉弟に入園の許可を出す思いやり、それが職務違反であること、子どもだけの入園は危険であること、全職員や動物園に迷惑をかけること、後で姉弟や母親に感謝されること、職務違反で職場を解雇されることである。そこで資料を2分割して「元さんはどうすればよかったですか」と問いかけ、結果を考えながら価値判断し解決策を構想できるようにする。解決策としては、①一時的な私情に流されて入園許可する、②姉弟の身の危険を考えて入園を認めない、③単に職務に忠実になって入園を認めない、④他の職員への影響や会社に対する迷惑を考えて入園を認めないなどが考えられる。それぞれ理由と結果を考えながら比較検討し、大局的に社会的規範の意義を再考し、当事者が納得できる最善の解決策を考えるようにする。

## (6) 学習指導過程

### 事前指導

総合学習の時間を利用して、自分が将来なりたい職業に関する調べ学習をし、その後で「自分がなりたい職業について成功するためには、どのような道徳性が必要か」をテーマに作文をさせる。実際の生徒の作文には、「勤勉に努力する」「責任ある仕事をする」「社会人としての規則を守る」「人から

信用されるようになる」などの記述があった。

### 導入

※ 『心のノート (中学校)』のp.88~89を参照する。

T 前回の総合学習では、将来の職業で成功するために、「規則を守るべきだ」「責任ある仕事をした  
い」と書かれた立派な作文がたくさんありました。学校や社会のルールは、何のためにあると思  
いますか。

C 暮らしやすくするため。→悪い人を罰するため。→ルールは人を縛るから、あまり多くない方が  
いいよ。

T もしルールがなかったらどうでしょう。例えば、もし野球でルールを守らなかったらどうなるで  
しょう。

C 試合にならなくなる。→つまらなくなる。→危ないんじゃないかな。

T そのとおりです。それでは、もし皆が社会のルールを守らなければ、どうなると思いますか。

C 社会が混乱する。→争いが絶えなくなる。

T 今日は「二通の手紙」を読んで、ルールについて考えてみましょう。

### 展開前段

※ 資料の前半を読む

T ここでは、何が問題になっていますか。

C 子どもたちを入園させるかどうかで迷っている。→子どもたちへの思いやりを大切にするか、仕  
事の規則を守るかで困っている。

T 姉弟から入園を頼まれたとき、元さんはどうすればよいと思いますか。

C 1 入園させる (22名) : かわいそうだから。→誕生日だから。

C 2 入園させない (18名) : 規則だから。→後で上司に叱られるから。

T その結果、どのようになると思いますか。

C 上司に叱られる。→姉弟に喜ばれる。→姉弟が動物に襲われる。  
→親から文句を言われる。→皆からほめられる。

※ 資料2を読む。

T 話を一通り読んで、元さんはどうすればよかったと思いますか。

C 1 案 入園させる (5人) : 姉弟が無事に見つかったからいい。

→姉弟とその母親を喜ばせたから。→一生の思い出になる。

→首になっても悔いはないはず。→情に流されているよ。

C 2 案 入園させない (35人) : 規則だから。→他の職員に迷惑だから。→姉弟が危険だから。→動  
物園の責任問題になるから。

→首になるから。→職場の規律が乱れるから。

T 元さんのとるべき行動として、別の解決策は考えられないだろうか。

C 3 案 「別の日に親と一緒に来なさい」と言えばよかった。

C 4 案 上司に連絡して相談すればいい。→親に電話したらどうかな。

C 5 案 元さんか他の職員がその姉弟に付き添って入園してもよかった。

T もし姉弟が自分の子どもだったらどうだろう。

C ルールだし、危険だから入園させない。→首になるから、自分の子どもでも例外は認めない。

T もし元さんの真似をして、他の職員も自分の勝手な判断で子どもたちを自由に入園させるよう  
になったとしたら、どうなるだろう。

C 職場が混乱する。→子どもたちが危険になる。→閉園できなくなる。

T 結局のところ、元さんはどうすれば最もよいだろう。

C 上司に相談し、入園させるなら誰か係員が付き添うべきだ。姉弟だけの入園は危険だし、園全体に迷惑をかけるため間違っている。

**展開後段**

T 同じテーマの問題を今度は学校生活のケースとして考えてみよう。

利夫が図書委員として図書室で受付をしていると、清が入ってきて勝手に本を持ち去ろうとした。利夫が「受付しなければダメだよ」と言うと、清はニヤリと笑って「なぁ友達だろ。見逃してくれよ」と言った。利夫は「規則だから…」と断ると、清は「この前マンガを貸してやったろ。すぐ返しておくから大丈夫だよ。それに図書室の本が少しくらいなくなったって、わからないよ」。

T あなたが利夫ならどうするだろう。その理由と結果も考えてみよう。

C 1案 貸す(2名)：友達だから。→けんかになると面倒だから。→マンガを借りたから。→すぐ返すと言っているから。

C 2案 貸さない(38名)：規則だから。→係として責任があるから。→皆が真似をすると困るから。→清の言い分は間違っているから。

T 清の言い分のどこが間違っていますか。

C 友達であることと本の貸し出しは関係ない。→マンガを貸りたことと係の仕事は関係ない。→図書館の本は一冊でもなくなると困る。

T その通りですね。他に解決策はありませんか。

C 3案 清にルールを理解させ説得する。：話せば分かるから。→清が嫌がらせをしてくるかも。

C 4案 他の図書委員や先生に相談する。：自分では決めかねるから。→皆で知恵を出し合えるから。→先生が指導してくれる。

T これは実際にある中学校であった話です。その後、図書室の本が古本屋で売られていることが発覚しました。本を持ち出した清は警察に補導され、それに協力した利夫も厳重に注意され、図書委員を辞めさせられました。このように友情のためにしたことでも、それが社会的なルールに反することだと、自分にも友達にも取り返しのつかない大変なことになることがあるのです。

**終末**

T 今日の授業でどんなことを考えましたか。

C ルールを守ることの大切さと難しさ。→仕事には責任が伴うこと。

T 初めにも聞きましたが、ルールとは何のためにあると思いますか。

C 自分や他人が不公平にならないようにするため。→学校や社会を秩序正しく保つため。→自分や友達を不正から守ることになる。

T 時に規則と思いやりが対立することもあります。公私混同したり一時の感情に流されたりすると、人から信用されなくなるだけでなく、自分や相手を危険にさらすことにもなります。逆に、責任ある仕事ができると、皆から信用され、社会で大きく成長できます。今週の目標は、ルールを守り責任をもって係活動をするにしましょう。

**事後指導**

T 係活動を責任もってできましたか。10点満点でいうと何点ですか。

C だいたい守れた(9点)。→今週は真面目にがんばった(7点)。

→友達と一緒にサボったこともあった(4点)。

T あと1点増やすためには、どうすればよいと思いますか。

C もっと自分に厳しくなる。→皆で声をかけ合いががんばる。→友達とも声を掛け合って協力し合う。

T これからも責任もって係活動をするよう努力していきましょう。

**(7) 評価方法**

規則の意義に関する認識がどれほど深まったか評価する。例えば、導入で「規則など人を縛るだけで面倒だ」と答えていた生徒が、終末では「規則は自分や友達を守り、社会の秩序を保つことにもなる」と考えていた点を評価する。次に、資料で生徒が単に身近な他者（弱者）に同情するだけでなく、社会的な見地から大局的に規則の意義を考えられたかを評価する。例えば、「姉弟がかわいそうだから、入園を許可する」と安直に考えていた生徒が、「姉弟の身の危険や職務上の規則をふまえて入園を許可すべきではない」と答えた点を評価する。最後に、授業後の実際の係活動を観察して、係の仕事を規則に従い遂行できたかを評価する。例えば、よく係活動をさぼっていた生徒がその週は自分の任務を意識し責任をもって活動した点を評価する。

## おわりに

本稿で提示した問題解決型の道徳授業は、多様なポテンシャル（潜在能力）を内に秘めているため、本稿で提示した内容が完璧な最終形態というわけではない。実際のところ、紙数の都合上、実践例の内容を大幅に割愛することになったし、定型外の授業スタイルや読み物資料のない授業も数多く作成されてきたが、本稿では従来の道徳授業と比較しやすいように、あえて従来の読み物資料と指導案に関連した実践例だけを取り上げた。

まずは、ここをスタートライン（または叩き台）として今後も現場の先生方や研究者、そして読者諸氏からご意見やご叱正を賜りながら、より実践的かつ有意義な道徳授業法に改良し、ゆっくりでも着実に育てていきたいと考えている。

## （註）

- (1) 柳沼良太・竹井秀文「問題解決型の道徳授業の理論と実践」、『岐阜大学 教育学研究報告 第7巻』, 2005年, 245-254頁。